

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 花房 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回った。 ・領域別では、書くことがやや下回ったが、他の領域では、全国平均を上回った。 ・観点別では、書く能力はやや劣るが、他の4観点では、全国平均を上回った。
	よってきた問題	・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる、記述式の問題がよくできていた。
	努力が必要な問題	・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える問題の無解答率が高かった。
算数	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回った。 ・各領域別では、「量と測定」領域が、やや下回るが、他の4領域では全国平均を上回った。
	よってきた問題	・数量や図形についての知識・理解を問う問題がよくできていた。 ・目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだす問題がよくできていた。
	努力が必要な問題	・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する問題の無解答率が高かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>○「家庭学習を1時間以上行っている」の割合がやや増えている。</p> <p>○「読書は好きですか」に、当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している率は高い。1日あたり(月～金)読書時間30分以上が、全国平均よりやや上回っているが、全体では、読書時間が多いとはいえない。</p> <p>○「難しいことでも、失敗を恐れないで、挑戦していますか」の割合が全国平均79%に対して、53.6%と割合が低い。</p> <p>○「家で自分で計画を立てて勉強していますか」は、前年度をやや下回っている。</p> <p>○「5年生までに受けた授業で、コンピューターなどのITCをどの程度利用しているか」の割合が低く、逆に「授業でもっとコンピューターなどのICTを活用したいと思いますか」の割合は9割を超えている。今後ITCを活用した授業に取り組む必要がある。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 既習事項の定着度確認のために学力サポートシステムの「診断問題」による確認テストを実施し、個々の履きを把握する。[月1回]
- 朝の15分間を活用して、曜日と学年を固定し、管理職・教務・担任が指導に入り、学力サポートシステムの「基礎・基本問題」を活用して、基礎・基本の定着に向けて取り組む。
- 帰りの会後の20分間を「補充学習タイム」とし、管理職・教務・担任で、学習支援に入る。
- 学年の実態や学習内容に応じ、管理職・教務が少人数指導に当たる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 各クラス宿題チェック、名札等の忘れ物チェックを毎日行い、基本的な生活習慣の徹底を図る。
- 学年×10+10分間の家庭学習に関して、教員間で内容・量及び「家庭チャレンジHB活用編」の活用について共通理解を図ると共に、学校だより・保護者会等で家庭に周知する。
- 「家庭チャレンジHB活用編」は月1回、担任と管理職・教務でチェックを行い、児童の意欲的な取組を喚起する。
- 自学ノートの取組を推進する。同学年や他学年の優れたノートを掲示し、各自の取組の参考とすると共に意欲付けを行う。